

特別講演 今後の学会の在り方と高気圧酸素療法 —両学会の合併に向けて—

四ノ宮成祥

防衛医科大学校
日本臨床高気圧酸素・潜水医学会副代表理事

私が日本高気圧環境医学会（名称は当時）にはじめて参加したのは、1985年に那覇で行われた第20回学術総会の時でした。当時、私は海上自衛隊潜水医学実験隊の実験部に所属しており、部隊には飽和潜水課程が創設されるとともに、450m有人飽和潜水（当時、東洋最深）を目指して準備していた時期でもあります。潜水医学において重要な疾病はいくつかありますが、最も重要なテーマはやはり減圧症の予防と治療です。一方、飽和潜水では長時間掛かるものの比較的安全な減圧表が考案されており、むしろ高圧神経症候群の回避やワークパフォーマンスの維持など深海潜水ならではの問題があり、私は未知の分野として高圧による免疫能の変化に焦点を当てて研究していました。1981年にDuke大学の実験設備で686mの有人潜水が達成された直後でもあり、まだまだ高圧との戦いが繰り広げられると考えられていました。そして、1992年にはCOMEXがHYDRA 10計画で有人潜水最深の701mを達成します。

選挙があり2002年度の理事に内定していましたが、同年癌研究のため渡米することになり、理事への就任を辞退し、ミシガン州Van Andel研究所の招聘研究員として分子腫瘍学の研究に専念しました。そして、帰国後、既に学会は分裂していました。事情は多々ありますが、2002年度の理事選で私を推挙して下さった方の多くが日本臨床高気圧酸素・潜水医学会（JACHOD）の立ち上げに関わったこともあり、私は日本高気圧環境・潜水医学会（JSHUM）の評議員を辞してJACHODの方へとより比重を移すこととなります。JACHODでは第6回の学術集会会長を担当したほか、現在では副代表理事も務めています。

これまでにJSHUM（実際には学会名称変更前の時期が中心）では飽和潜水の仕事を中心に研究力を育ててもらいましたし、JACHODでは気圧外傷や酸素中

毒の領域を中心に高気圧酸素治療技師の安全講習に関わってきました。両学会は分裂から20年近くの時を経て、再度志を共に、そして元に戻るのではなく更なる発展を目指して合併しようとしています。安全な潜水や高気圧酸素治療の実施と高気圧酸素治療の効果検証は今なお重要なテーマです。両学会の合併は、高気圧・潜水医学領域の新たな進歩をもたらすことでしょう。本学術集会がその第一歩となればと考えています。